

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導 03 自立活動
概要	高等学校で行う自立活動とはどのようなものですかという相談
事例提供校	高校： 東部地区 全日制 特支： 東部特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	・高等学校で自立活動の指導を導入し、さらに充実させたいのですが、どのようにしたらよいか基本的なことから教えて欲しいです。
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）
	<p>教育課程に特別に設けられた障害に対応した指導領域です。障害のある子どもたちの場合は、その障害によって、学習場面や日常生活において様々なつまずきや困難が生じます。なので、生活年齢に即して教育するだけでは十分とは言えません。</p> <p>子どもたちの個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導が必要となります。それが「自立活動」です。自立活動の目標は「生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」ことです。</p> <p>例えば、自己コントロール・相手を意識した行動の学習これまでの学習では、身近な人→関わりがある人→関わりはあまりないが知っている人など段階を踏んで人に尋ねる学習を積み重ねてきました。これまでの学習の過程をクイズ形式で復習し、声のかけ方を練習しておくことで、普段関わりのない人に対して自信をもってインタビュー活動ができました。聞こえづらい時には自ら質問することができました。</p>

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	・今まで高等学校の授業ではあまり実践したことがないですが、こういった授業でよいのであれば、取り入れたいと思います。
	特別支援学校 担当者のコメント
	<p>自立活動の意味は理解していただけたように思います。実践事例をもっと紹介して実践の中から生徒の変化や成長をとらえて欲しいと考えます。人関係に苦手意識があったり、場面に応じた適切な言葉遣いが分からなかったりする（自分自身はこれでよいと思っている）場合があります。不適切な場面で指摘するよりも、機会を作って具体的な話し方を伝えておく方が効果的です。また、その場でアドバイスする場合は、否定的な言い方ではなく本人が受け止めやすい伝え方をするなど工夫が必要です。</p>

まとめ
<p>学習、生活上の困難さに応じて適切な支援を行い、充実した高等学校生活の実現を図ることが重要です。教員が適切なモデルとなることが生徒にとって大切です。</p>

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。